

はじめに

“海女”とは、素潜り^{すもぐ}でアワビやサザエをとる漁^{なりわい}を生業とする女性たちのことで、他に類のない女の漁師さんといえましょう。

3千年も前の白浜遺跡(鳥羽市浦村町)から、大量のアワビ殻とともに鹿角製のアワビオコシと呼ばれる道具が見つかっており、海女もいたと推測されます。時代は下がりますが、万葉集や歴史の書にも海女はたびたび表われるようになりますから、志摩半島の海女が数千年も前から活躍していたのは間違いなく、現在にいたるまで、その漁の伝統を守りつづけています。

人間自身がその肉体と知恵を使ってする海女の漁法は、動力機械や情報通信技術に頼る近代漁法からは遠い原初的な漁法でありながら、現在にいきつづけているのはなぜでしょうか。

海女は「50秒の勝負」といわれるように限界ぎりぎりまで息を使いきって潜水作業を繰り返します。冷たい水のなかのきびしい仕事ですが、海女たちは陸^{おか}に上がれば実に明るく屈託のない性格です。疲れて冷えた体を焚き火で暖める海女小屋なのに、笑い声が絶えません。

自然の恵みに感謝しつつ漁をする海女たち。海に暮らしを賭ける生き生きとたくましい女性の姿があります。さらに海女たちは自然に頼るゆえに、アワビやサザエを取り尽くさないため、さまざまな約束ごとを守ってもきました。

“磯のアワビも3年待てば可愛い娘の嫁支度”
と唄われたように、資源の保護に努めてきました。

海女は志摩半島の暮らしの大事な生業であるとともに、一つの生きた文化といって過言ではありません。

近年、海女は高齢化し、後継者が少なく、この海女が生み出した伝統と文化がいつまでつづくか心配されています。本書は、そんな海女の作業、道具、習慣、風俗、獲物などから、歴史や文芸まで、海女のすべてを理解していただくためにわかりやすい図解としました。

大切な日本の文化遺産“海女”を元気にするため、海女をよりご理解いただきたいと願います。



目次

はじめに2

グラビア 鳥羽・志摩の海女4

■図説 海女のしごと10

1 海女の操業12

2 舟人と徒人20

3 海女の着衣と道具24

4 海女の獲物30

5 アワビの漁獲制限32

6 数字で見る鳥羽・志摩の海女34

■図説 海女の物語38

1 海女の歴史40

2 神宮と海女44

3 海女の不思議48

4 海女の風習50

5 海女のまつり54

6 海女と文芸58

あとがき63